

# 平成25年度 柏崎市刈羽郡学校教育研究会保健体育部 活動報告

部長 藤下直人

## 1 はじめに

柏崎市刈羽郡学校教育研究会は、会員の資質向上及び学校教育の充実発展を図るため、柏崎市教育委員会及び刈羽村教育委員会、柏崎市立教育センター、関係機関等と連携し、特色ある事業を推進することを基本方針としている。今年度の部員校種別構成は、小学校35人・中学校29人・特別支援学校12人・柏崎翔洋中等教育学校2人の計78人で構成され、実技研修と授業研究を柱に事業を展開してきた。

## 2 事業内容

(1) 柏崎市立教育センターとの連携による事業

- ①「ニュースポーツ研修」12月12日 ②「武道指導技術講習」11月12日

(2) 実技研修

- ①「水球指導」8月8日

(3) 研究部内授業研修

- ① 小学校の部 ② 中学校の部

小学校の部の研修は、郡市内の小学校を4グループに分け、順番に授業研究を行っている。今年度は、第3グループの鯖石小学校で、領域A:「体づくり運動」(1) イ・体力を高める運動の授業を行った。

## 3 授業研究(小学校の部) 全5時間

(1) 単元名「ダブルダッチ」

(2) ねらい(3/5)

「縄に入るタイミング」や「連続して跳び続けるリズム」をどのように工夫するとよいのか検討する活動を通して、「むかえ跳びのように手前の縄が上に上がってきたら入るとよいこと」や「トントントントンと着地したらすぐにジャンプするリズムで跳ぶとよいこと」に気づき、回旋する2本の縄を跳び続ける動きを高めていくことができる。

(3) 指導の構想

子どもたちは「仲間全員がダブルダッチで10回以上跳べるようになる」という願いの実現に向けて、実際にダブルダッチに取り組んでいく。しかし、思うようにいかずに追求が行き詰ってくる。そのような状況で、教師や仲間の動きを提示し、それらの動きを見比べながら解決方法を検討する活動を組織する。

これにより「縄に入るタイミング」や「連続して跳び続けるジャンプの仕方」について動きのイメージを膨らませ、問題解決に向けて再び追求を始める姿が期待できる。

(4) 指導の実際(抽出兒を追って)

- ①縄に入るタイミングに問題意識をもった  
②仲間の動きを見比べ、解決の見通しをもった  
③イメージはあるが、思うように縄に入れず、追求が停滞した  
④友達にタイミングを教えてもらい、ダブルダッチに取り組むことができた

(5) 授業を終えて

①教師や仲間の動きを見比べながら、解決方法を検討する活動を組織することで子どもの問いを下記の3つに焦点化しながら、効果的に運営できた。

- ・「縄に入るタイミング」 ・「跳び続けるリズム」 ・「縄から出るタイミング」

②別の視点から課題解決に迫るよう働きかける

むかえ縄に着目しても技能の習得に効果が上がらない場合は、かぶり縄に視点を移すことも必要である。

③仲間と協力しながら取り組む体づくり運動

技能習得のみが体づくり運動のねらいではなく、仲間との協力や教え合いの過程が大切である。



個々の課題を話し合う子ども



軽く肩を叩き、タイミングを支援

## 4 おわりに

学習指導要領の目標に述べられている「生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる」には、まず、自分の体力に関心を持ち、自分のからだのことを知ることから始める必要がある。そして、仲間とかかわり合いながら、いろいろな運動に取り組み、楽しさや喜び、達成感を味わわせていかなければならない。柏刈学校研保健体育部では、今後も教師の指導力向上を図り、発達段階に応じた指導を充実させていきたいと考える。